

処理に困る高速道防雪林

間伐材からアロマ製造

NEXCO東日本と
白神アロマ研(鯨ヶ沢)

眠気覚まし効果も



東日本高速道路(NEXCO東日本)東北支社青森管理事務所が、鯨ヶ沢町の白神アロマ研究所(永井雄人代表社員)と協力し、東北自動車道沿いにある防雪林の間伐・剪定した端材から精油(アロマオイル)を抽出、スプレーや芳香蒸留水を製造した。分析した結果、間伐材には覚醒作用成分が多く含まれることが判明。同事務所は高速道を利用する運転手らに配布、居眠り防止による事故抑止に期待を掛けている。

(秋元宏宣)



【写真右】高速道路沿いの間伐材で精製したアロマオイルと蒸留水スプレー

【同左】高速道路沿いのドイツトウヒの伐採作業に当たる青森管理事務所の職員ら。2017年8月(NEXCO東日本東北支社青森管理事務所提供)

同事務所は、青森インターチェンジ(IC)から碓ヶ関ICまでの東北道の維持管理や保全を担当している。道路沿いには防雪林として、マツ科の常緑針葉樹・ドイツトウヒが植えられており毎年、倒木防止のための伐採や、成長した枝葉の剪定を行っている。

同事務所の後藤優所長によると、間伐材は毎年4トントラック数台分に上り「処理費がばかにならない」と言う。活用策を模索していたところ、知り合いの木工業者から白神山の樹木でアロマオイルを精製している同研究所を紹介され、昨年初めて、間伐材のオイル作りに挑戦した。

オイル精製に当たり、同研究所は福岡県の研究機関

ったという。

ドイツトウヒの刺激臭を和らげるため、爽やかな香りのヒバやクロモジをブレンド。香りの異なる「リラックス」「リフレッシュ」の2種類の精油を各50本、希釈スプレー500本、芳香蒸留水スプレー2千本を製造。今春から交通安全キャンペーンなどを宣伝するノベルティ品として運転手らに無料で配り始めている。

後藤所長は「環境保全と事故防止の両面に役立てることができ有意義」、同研究所の永井代表も「社会貢献に寄与でき光栄」と話している。今年製造したアロマは7月ごろから配布予定。昨年より1〜2割増産することになっている。

にドイツトウヒの成分分析を依頼。その結果、約30種の芳香成分のうち、ボルニルアセテートが約16%と最も多く含まれていた。同成分は血行促進による覚醒作用が高く、眠気覚ましに効果が見込まれることが分か